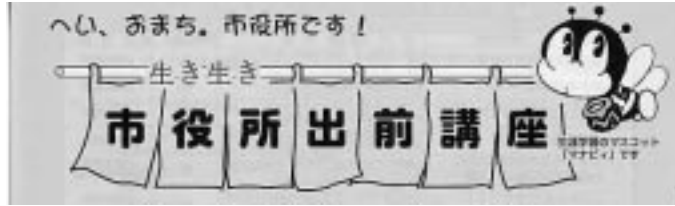


市長講話



競艇は？
道路は？
森林づくりは？

市長がお話します



熱心に講話に聞き入る東公民館高齢者学級の皆さん

昨年度、市内各小学校で、「耳をすませば森林のささやきが聞こえる」をテーマに、市長の出前講座を開催。多くの小学生から共感と、家族で取り組んだ環境保全の報告の手紙など、大変な反響をいただきました。今年度はより多くの人に気軽に、市政の現状と課題について知っていただけるよう、生き生き市役所出前講座のメニューに、「市長講話」を加えました。今号では桐生市の財政状況、競艇事業、森林づくり等、「市長講話」の概要を紹介します。

赤字になりそうな競艇事業 施設借り上げ料率引き下げを

経済状況が低迷し、桐生市の財源といえる市税の収入も減少しているなか、もうひとつ市の収入に大きな影響があるものに、競艇事業収入があります。

しかしここ数年の競艇事業は、不況などの影響を受けて売上が減少の一途をたどり、市の事業収入も減少が続いています。平成十三年度は、当初予算で十五億円を見込んでいましたが、決算見込み額では三億円程度までに落ち込んでしまいました。

従事員の減員や賃金の抑制などの各種の経営努力にもかかわらず、今年度以降は赤字が予想される状況です。

全国的に競艇事業経営が厳しい中、他の競艇場は状況打開のため、「三連勝式投票システム」の導入を図っています。このうち桐生市の負担は二十四億円にもなるうえ、一時的な効果はあっても恒常的売上増は見込めません。

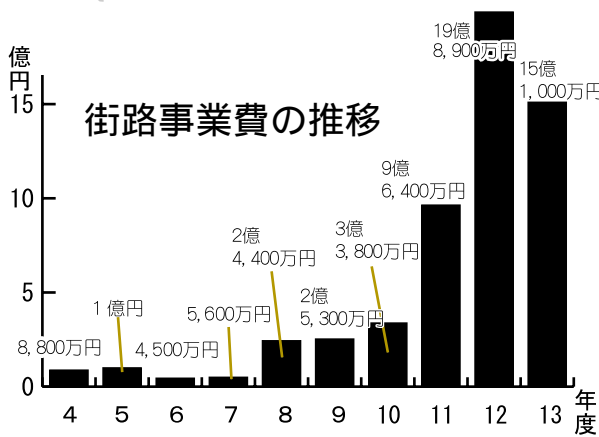
今後、競艇事業収入の適正な確保により、競艇事業を続けていくためには、「三つの課題」があります。施設借り上

げ料率の引き下げ、特殊法人である日本船舶振興会等への法定交付金の引き下げ、関係会社へ支払う開催経費の見直しを実現する、この三つの課題の解決を最優先と考えています。

これらは、市の競艇事業収入の減少には関係無く、総売上額によって決まるため、競艇事業の厳しい経営状況に見合った額に引き下げてもらわなければ、今後は赤字を市税で埋めなくてはならなくなります。

施設借り上げ料率の場合、現在の五・五パーセントを他の競艇場並みの四・五パーセントに一パーセント引き下げること、仮に年間四百億円の売上があれば、四億円が桐生市の収入となりますので、現在、施設管理会社である関東開発株式会社と交渉を行っています。

また、日本船舶振興会への法定交付金についても、すでに国の税制調査会の改善勧告が出されていますが、勧告通りに改善されていれば平成十一年度の場合で、約六億四千万円もの収入増となる計算に



競艇事業収入や税収が低迷している状況で、市政運営のための収入を確保するには他の財源を探さねばなりません。この一つに「特別交付税」があります。これは国から市町村に交付されるもので、桐生市は今まで競艇事業収入が大きかったため、交付額が他市に比べて少なく、平成十年度には、県内十市の平均額の三分割弱でした。しかし競艇事業収入の減少等、桐生市の現状

特別交付税の確保や事業費の見直し 道路行政は急速に進展

なります。
法定交付金の引き下げについて市議会でも国への意見書を出したところであり、全国の競艇施行者とも連携して改善を求めていきます。

今年三月に完成した「し尿処理施設」は、当初は建設費の総額が約八十二億円、このうち桐生市他広域圏での負担分が約五十三億でしたが、事業の見直しと、国の補助金等を導入し、総額が約五十二億円、桐生市等の負担分を約十六億円にまで削減することができました。こうして浮かせた経費は市民のために別の事業に使う事ができます。また、五年後の平成十九年度には、北関東自動車道の全線開通が予定されています。交通網の整備による市の活性化のため、北関東自動車道へのアクセス道路の建設を進めて来ましたが、道路整備は莫大な経費が必要で、平成十年度の段階では北関東自動車道の開通に間に合いそうもない状況でした。しかし平成十



きれいな水のために森林づくりを

森林づくりと産学官ネットワークで

桐生市の夢づくり

環境問題が世界的に重要な課題となっており、特に森林伐採は深刻で毎年、日本の本州の面積の半分近くが消滅しているといわれています。一方、日本国内では多くの森林は手入れが行き届かず、荒れている状態です。

森林には生活に欠くことのできない「きれいな水」をつくる機能と、広葉樹を植えることで将来的に大きな経済的財産となる可能性を持っています。このため桐生市は、環境保全と財産づくりの二つの観点から、森林づくりを進め

ています。よく手入れされた森林はスポンジのように雨水をため、雨水の汚れをろ過し、ミネラルに富んだきれいな水を私たちに与えてくれます。そこで桐生市の五百六十六ヘクタールの市有林を、針葉樹と広葉樹が半々位の割合となる「複合林」の計画を進めています。また、針葉樹の中で育つ広葉樹は、周りの針葉樹と同じようにまっすぐに伸び、商品価値のある木材として高い値段で取引されるため、将来大きな桐生市の財産となること

が期待されます。森林づくりでの将来の夢とともに、桐生市の明るい未来のため、若者が定着できるまちづくりもしなければなりません。それが桐生市が進めている産学官連携のネットワークによる産業の育成です。群馬大学という研究機関の知的財産と、ものづくりのまちとしての桐生市の産業界と、行政とが連携し、研究や技術開発の支援をすることにより、研究機関の持つ技術や知識が新しい産業の創造や産業の発展を助けるような、システムづくりを進めています。桐生市に、時代を先取りするような企業が生まれ育つ事が期待されますが、既に織物の技術を活かした環境保全のための製品などが全国的に紹介されています。桐生市には蓄積された財産豊かな自然と整った都市基盤があります。そしてこれらを活かした将来の夢が息づいています。今後自信と誇りと夢をもって、皆さんとともに明るく元氣な桐生市づくりを目指します。

いきいき市役所出前講座「市長講話」は、生涯学習課（☎市役所内線270）へご注文ください。